

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：32414

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593525

研究課題名(和文) 認知症高齢者の認知機能レベルに応じたアートセラピーのプログラムと評価方法の開発

研究課題名(英文) Development of an art therapy program and a measurement scale tailored to the cognitive function level of elderly people with dementia

研究代表者

川久保 悦子 (KAWAKUBO, Etsuko)

目白大学・看護学部・助教

研究者番号：30614698

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、認知症高齢者に対するアートセラピーのプログラムと評価方法の開発をすることである。研究方法は、予備調査として、認知症高齢者に対して介入し、ニーズの確認をし、評価表案を検討した。本調査では、全国の施設1000か所のスタッフを対象とした自記式質問紙調査を行った。121件のデータ分析の結果、以下の知見が得られた。因子分析では9因子の構造化を確認した。またCronbach's 係数は0.52～0.88であった。各因子を構成する項目合計得点と項目全体の合計得点との相関係数0.172～0.591であった。これより、アートセラピーのプログラムと評価方法の信頼性と妥当性を確認できた。

研究成果の概要(英文)：To provide better care, the aim of this study was to develop an art therapy program and measurement scale for elderly people with dementia. As a preliminary investigation, a draft evaluation list was investigated by examining the needs of elderly people with dementia through intervention. For this investigation, staff at 1,000 facilities in Japan were asked to complete a self-administered questionnaire. Data analysis of the 121 returned questionnaires revealed a 9-factor structure, as confirmed by factor analysis. Furthermore, Cronbach's alpha (0.52-0.88) and the correlation coefficient between the total score of items constituting each factor and the total score of all items (0.172-0.591), confirmed the reliability and validity of this art therapy program and measurement scale.

研究分野：医歯薬学

キーワード：認知症高齢者 アートセラピー 介入 評価 尺度

1. 研究開始当初の背景

(1) 非薬物療法の必要性

わが国の認知症高齢者は増加傾向にある。しかし、認知症治療薬の効果は進行抑制、ADLの維持、介護時間の短縮、行動・心理症状(BPSD)の発現遅延であり、根本的な治療には至らない。認知症で本人および家族が生活上問題となるBPSDの訴えは、介護者や家族のケアやかかわりによって改善されたり、されなかったりする。そのように認知症には、薬物療法と非薬物療法の両者を使用していく必要がある。

(2) アートセラピーの評価の必要性

特に非薬物療法の中でもアートセラピーは自己表現を奪われた認知症高齢者にとって自発性や意思疎通をはかれる最適な療法である。しかし、アートセラピーの効果を測る尺度は一般的にはないこと、認知症機能レベルに応じた画題の考案は十分にされていないことという現状がある。また、斎藤は認知症の非薬物療法の効果検証は個性を含め、プラン化し包括的に評価する必要性があると述べている。筆者は独自の作品の評価表を作成し、アートセラピーの介入に取り組んできた。その結果、作品を評価することは、高齢者の感情の変化をとらえることができること、高齢者の反応をみることは、生活の質(QOL)を改善し、よりよいケアにつながるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、高齢者施設を利用している日常的にケアを行う看護師およびケアスタッフでも行えるアートセラピーのプログラムと評価方法を開発することである。

(1) 認知症高齢者が受け入れやすいアートセラピープログラムの内容を明らかにする。

(2) アートセラピーの評価方法を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) アートセラピーにおけるQOL評価表の効果とアートセラピープログラムの効果を解明

尺度開発の第一段階として、国内外のアートセラピーレビューの結果、アートセラピー実践の評価は海外ではQOLの評価に重きがおかれ、日本では精神活動の変化を評価するものが多かった。そのため、本研究のプログラム開発と評価指標の開発のための基礎資料として、デイサービスの認知症高齢者4名に対して3か月間12回、アートセラピーの介入研究を行った。QOLという視点から心理的幸福尺度(Psychological well-being instrument)で評価した。個別的な評価のために心理的幸福尺度は有効であった。プログラムにおいては、美的なものや、手芸、コラージュは認知症高齢者により反応を引き出せることが明らかになった。

(2) 認知症高齢者のアートセラピーに対するニーズの分析

尺度開発の第二段階として、認知症高齢者のアートセラピーに対するニーズおよびポジティブな反応とネガティブな反応があらわれたアートセラピーの特徴を明らかにした。デイサービスの認知症高齢者4名に対して3か月間12回のアートセラピープログラムをおこなった。分析方法はプロセスレコードに対象者のニーズを表している言語や非言語を抽出し、ニーズ内容をカテゴリ化した。結果、ニーズは「人と交流したい」「制作の時間を持ちたい」「自己表現したい」「安寧でいたい」であった。ポジティブな反応がみられたアートセラピーの要因は、対象者の身体要因や生活背景によるものであり、個性を考慮した介入の必要性が示唆された。

(3) 質問項目の作成・尺度化

第一に、アートセラピー評価表の制作の

ため質問紙の項目を選んだ。質問項目は、アートセラピー参加者の作品の特徴とアートセラピーにおける参加者のニーズで構成した。作品の特徴の項目は川久保らの作品の評価表をから抽出した。その項目は、作品の一般的な評価 10 項目【大きい】【バランスよい】【多色】【美しい】【濃い】【明るく、あざやかな】【線が強い】【立体的】【静的な】【動的な】および、アルツハイマー病患者の描く絵の特徴 10 項目【退行】【固執】【単純化】【ひ弱】【かけら】【歪み】【知覚の回転】【重なった輪郭】【間違った遠近法】【わからない絵】で構成されている。参加者のニーズの項目は、ニーズ分析の研究結果から【周囲の人と関わりたい】【人に見てもらいたい】【教えてほしい】【道具を使いたい】【高度なものを作りたい】【集中(没頭)したい】【失敗したくない】【心身の安楽を得たい】【自分の思い通りに作りたい】【選択できる素材がある】【部屋に飾るものを作りたい】【作品を記念にしたい】【作品を評価されたい】【自己表現の場でありたい】の 14 項目を評価基準とした。合計 34 項目に、とても該当する(4 点)、やや該当する(3 点)、あまり該当しない(2 点)、まったく該当しない(1 点)の 4 段階リッカート尺度とした。

(4) 調査

質問項目の選定と尺度の信頼性・妥当性の検討のため、郵送法による質問紙調査を実施した。

測定用具

作成した尺度と対象者背景を問う自作質問紙である。

データ収集法

層化無作為抽出法にて、全国の介護老人保健施設の通所介護(デイサービス)、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、小

規模多機能居宅介護、計 1000 施設を抽出し、管理者を通してアートセラピー・アート作業に携わっているスタッフに対して依頼書、質問紙、返信用封筒を配布した。データ収集期間は 2015 年 2 月 6 日~3 月 16 日であった。

分析方法

回答件数 179 件(回答率 17.9%)のうち、施設において、現在アートセラピーもしくはアート作業に携わっていると回答した方 121 件を対象とした。4 段階リッカート尺度得点の統計処理をした。まず質評価項目を選定するために質問項目の平均値の検討を行い、選定された項目の概念妥当性を確認するために因子分析(主因子法、プロマックス回転)を行った。信頼性を検討するために I(項目 item)-T(全体 total)相関分析を行った。さらに内的整合性による信頼性を示す Cronbach's 係数を求めた。統計分析ソフト SPSS(Ver.22)を使用した。

倫理的配慮

目白大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。(承認番号 14-035)

対象者に調査協力の任意性、個人情報の遵守、を文書にて説明した。

4. 研究成果

(1) 回答者の概要

アートセラピー・アート作業に携わっている方は 40 歳代が 28.9%、50 歳代が 28.1%であった。性別は女性が 71.1%であった。介護福祉士が 65.8%、ケアマネージャー 43.3%、ホームヘルパー 35.8%であった。

(2) 質問項目の平均値

平均値は 1.89 から 2.91 の範囲回答分布の偏りと考えられるシーリング効果、フロア効果のみられた項目はなかった。

(3) アートセラピー評価表の因子分析

34 項目の標本妥当性の測定は KMO (Kaiser Meyer Olkin) の 0.735 であり、Bartlett の球面性検定が 0.1% 以下で有意であった。因子分析は一般化最小二乗法、最尤法、主因子法を実施し検討し、因子負荷量から主因子法を採用した。因子数は固有値の下限を 1 として抽出した。スクリープロットから 4 因子も検討したが、一つの項目が複数の因子に高い因子を持っていたため採用しなかった。回転はプロマックス回転を行い 9 因子が抽出された(表 1)。因子ごとの項目の共通性を考慮し、「作品に対する良い印象」「作品に対する悪い印象」「表現したい」「作品に対する縮こまった印象」「飾りたい」「できるようになりたい」「人と関わりたい」「自分で決めたい」「きちんと作りたい」と因子名を付与した。

因子負荷量を 0.35 以上としたとき、表 1 に示すように二重負荷が「集中(没頭)したい」と「高度なものを作りたい」の 2 項にみられた。「集中したい(没頭)したい」は、因子「表現したい」と因子「できるようになりたい」と、それぞれ 0.44 と 0.55 とある程度高い因子負荷を持っていた。質問文の意味の明快さが必要と考える。

因子を構成する項目の合計得点と、項目全体の合計得点の相関係数 0.172~0.591 の範囲にあった。相関係数は 1% 未満の有意水準で 8 因子が有意であったが、「作品に対する縮こまった印象」の 1 因子のみ相関係数が 0.172 であり、ほとんど相関がなかった。測定用具として識別力は不十分と考えられる。

尺度の信頼性は Cronbach's 係数により確認した。34 項目全体では、0.82 であり、一応の信頼性は得られたものの、各下位尺度の計数は 0.52~0.88 の範囲にあった。因子分析結果で得られた 9 因子の Cronbach's 係数は「自分で決めたい」0.52「きちんと作りたい」0.52「人と関わりたい」0.53 と低い値を示す。それらは高齢者の自己決定の項目

内容についてであり、高齢者とケア者とのアートに対する思いの差が生じていると考えられる。さらなる検討が必要である。

因子を構成する項目数は作品の特徴が最も多く 9 項目で、参加者のニーズの「飾りたい」「人と関わりたい」「自分で決めたい」「きちんと作りたい」が 2 項目と因子間でばらつきがある。さらなる項目の再検討と信頼性の高い質問紙の検討が必要である。

表 1 因子分析の結果

項目	因子負荷量								
	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7	因子8	因子9
作品の特徴	0.84								
作品に対する良い印象	0.81								
作品に対する悪い印象	0.75								
表現したい	0.71								
作品に対する縮こまった印象	0.70								
飾りたい	0.63								
できるようになりたい	0.59								
人と関わりたい	0.52								
自分で決めたい	0.51								
きちんと作りたい	0.43								
集中(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい		0.89							
高度なものを作りたい		0.89							
集中したい(没頭)したい									

妥当性は確認できた。

引用文献

本間昭 認知症の治療における最前線、日本認知症ケア学会誌第 16 回日本認知症ケア学会大会プログラム・抄録集 14 巻(1) 2015, 42
宇野正威、芸術療法：美術療法と音楽療法、老年精神医学雑誌、17 巻(7) 2006、749 - 756

斎藤正彦、認知症への非薬物療法 認知症の非薬物療法をめぐって、老年精神医学雑誌、20 巻(1) 2009、67 - 73

川久保悦子、内田陽子、小泉美佐子、認知症高齢者に対する「絵画療法プラン」の実践と評価、The Kitakanto Medical Journal.61 巻(4)、2011、499 - 508

川久保悦子、認知症高齢者に対するアートセラピーの評価指標に関する文献検討、群馬パース大学紀要、15 巻、2013、87 - 98

Rentz CA: Memories in the Making© ; Outcome-based evaluation of an art program for individuals with dementing illnesses . American Journal of Alzheimer 's Disease and Other Dementias. 17 巻(3) 2002、175 - 181

川久保悦子、伊藤まゆみ、内田陽子、認知症高齢者のアートセラピーにおける介入評価と実践的方法の工夫、認知症ケア学会誌、13 巻(2) 2014、500 - 511

川久保悦子、伊藤まゆみ、福田彩乃、菊田歩、戸塚彩、内田陽子、認知症高齢者のアートセラピーに対するニーズの分析、日本認知症ケア学会誌

第 15 回日本認知症ケア学会大会プログラム・抄録集、13 巻(1)2014、212

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

川久保悦子、伊藤まゆみ、内田陽子、認知症高齢者のアートセラピーにおける介入評価と実践的方法の工夫、認知症ケア学会誌、査読有、13 巻(2) 2014、500 - 511

〔学会発表〕(計 2 件)

川久保悦子、伊藤まゆみ、内海恵季子、設楽智美、前原あみ、内田陽子、デイサービスを利用している認知症高齢者へのアートセラピーの効果 - 少人数グループにおける介入 -、日本認知症ケア学会第 14 回大会、2013 年 6 月 1 日～6 月 2 日、福岡国際会議場、福岡サンパレス 福岡県福岡市

川久保悦子、伊藤まゆみ、福田彩乃、菊田歩、戸塚彩、内田陽子、認知症高齢者のアートセラピーに対するニーズの分析、日本認知症ケア学会第 15 回大会、2014 年 5 月 31 日～6 月 1 日、東京国際フォーラム、東京都千代田区

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川久保 悦子 (KAWAKUBO, Etsuko)
目白大学・看護学部・助教
研究者番号：30614698

(2) 研究分担者

内田 陽子 (UCHIDA, Yoko)
群馬大学・大学院・保健学研究科・准教授
研究者番号：30375539

(3)研究分担者

(平成 24 年度～平成 25 年度)

伊藤 まゆみ (ITO , Mayumi)

群馬パーズ大学・保健科学部・教授

研究者番号：5 0 2 5 1 1 3 7